14 大都市近郊の立地を活かした露地野菜の生産拡大

【神奈川県・三浦（みうら）市】

○ 谷戸（やと）田を畑地に造成し、畑地かんがい施設や農道を整備することにより、全国有数の露地野菜産地を形成。
○ 営農条件が改善されたことで、「かながわブランド」のだいこん、キャベツなど高収益作物の作付けが拡大。
○ 東京、横浜の一大消費地に近い立地を活かし、消費者ニーズに即したマーケットインの野菜栽培で販売額が増加。

取組前

未整備の農地 耕作放棄地の発生

● 三浦半島特有の丘陵地の間の入り組んだ谷戸では稲作が行われていた
● しかし、狭小な湿田であり農作業に多大な労力を要することから、昭和50年代以降、耕作放棄地が増加

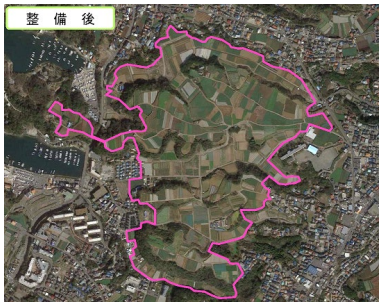
畑地造成前の地区の状況

耕作放棄された谷戸田

取組内容

畑地造成

基盤整備促進事業（H2～21）
・谷戸を埋め、畑地を造成



まとまりのある優良農地を造成

生産基盤の整備

農業競争力強化基盤整備事業（H27～）
・畑地かんがい施設、農道の整備

効率的なかん水を可能にした給水施設

荷痛み等を抑制した整備された農道

地域資源の保全活動

多面的機能支払交付金（H29～）
・農業用施設の保全管理活動の負担軽減

取組後

高収益作物の栽培による販売額の増加

【営農規模】27.5ha
【経営体数】130戸
【作目】だいこん、キャベツ、かぼちゃ、すいか、冬瓜

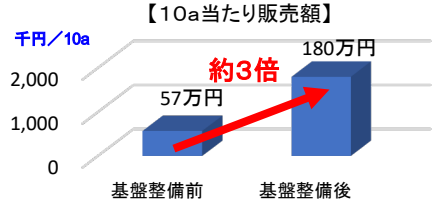
【高付加価値化】
○ 生産基盤の整備により、効率的な作業、用水の安定確保が可能になり、高収益作物の導入が進み「かながわブランド」などの野菜作付けが拡大。
　また、年に２～３回の作付が可能で効率的に高収益作物を生産。

【高収益作物】
すいか 8.6ha
三浦かぼちゃ 0.9ha
青首だいこん 17.0ha
早春キャベツ 17.4ha
冬瓜 0.3ha

「かながわブランド」三浦かぼちゃ

○ 大都市近郊の立地を最大限に活かし、消費者のニーズに即したマーケットインな少量多品種の露地野菜を生産

○ 安定的な販路の確保及び契約栽培による高単価での販売により、農家の単位面積当たりの販売額が大きく増加



多品種のイタリアン野菜

【都市農村交流】
○ 親子を対象とした農業体験イベント「かながわ農業大発見！」を毎年実施し、県民理解を促進

農業体験イベント「かながわ農業大発見！」

◆ 誰がどのように・・・

狭小、湿田での米生産は農作業負担が大きいため、土地改良区の理事長が中心となって行政、農業者、JA等が話し合いを重ね、担い手への農地集積や周辺でブランド化が進むだいこん栽培の導入、それに必要な基盤整備を推進

きっかけ

谷戸田での稲作を行っていたが、非効率な営農環境から耕作放棄が増加

Step 1　（H2～21）
生産基盤整備の実施（畑地造成）

○ 荒廃農地の解消、規模拡大による農業経営の改善を目的に、基盤整備促進事業により谷戸田を盛土して生産性の高い畑地を造成し、台地畑を整備

Step 2（H２～21）
営農規模の拡大

○ 基盤整備により点在する荒廃農地を解消し、創出した農地を担い手に集積

○ 営農条件の改善及び規模拡大により稲作から露地野菜栽培へ転換

Step 3　（H21～）
高収益作物の導入

○ だいこんやキャベツを基幹とする露地野菜を栽培し、H25にかながわブランド（県認証）の指定を受けるなどブランド力を高めた営農を実施

○ 高収益作物の導入を生産者自らの経営判断で取り組む

生産基盤整備の実施により、狭小な湿田からほ場の営農条件が格段に向上した畑地に変わり、米ではなく、露地野菜の栽培が可能になった。これにより、造成された畑地から、順次、担い手に集積して営農規模の拡大を図るとともに、三浦市全体で導入されているブランドのだいこんの栽培が始まり、その結果、地区全体で高収益作物の導入が推進。

（左）三浦だいこん
（右）青首だいこん

Step 4　（H27～）
生産基盤整備の実施（畑地かんがい施設、農道）

○ 畑地造成後、畑地かんがいと農道整備を望む声が高まり、水源となる深井戸を県が調査

○ 安定した用水確保のため、農業競争力強化基盤整備事業により深井戸揚水、配水機場、パイプライン等のかんがい施設を整備

○ 出荷作業の荷痛み防止等のため、農道を整備

春キャベツの収穫風景

三浦海岸のだいこん干し

青首だいこんの収穫風景

☆さらなる販売拡大に向けて

米からだいこんへの転換は進んだが、さらなる販売拡大に向けて、大都市近郊のメリットを活かし、消費者ニーズに即したマーケットインな農業生産や外食産業との契約栽培による直接出荷を実施し、販売額が大幅増加

Step 5　（H27～）
更なる高付加価値化

○ 大都市近郊の立地を活かし、マーケットインによる少量多品種の露地野菜を生産

○ 大都市のレストランや居酒屋等の外食産業と契約し、イタリアン野菜を直接出荷

かながわブランドコーナーによる販売

畑のすぐ近くまで農道が整備されたことにより、だいこんやキャベツ等の重量野菜の運搬が容易に

Step 6　（H29～）
保全管理の負担軽減

○ 基盤整備の実施により、畑地かんがい施設や農道等の対象施設が増えて維持管理の負担が増大。土地改良区を中心に、農地・農業用施設の共同管理を行う活動組織を設立

○ 保全活動の負担軽減に加え、豪雨時の迅速な対応等が可能となり防災減災に寄与

今後の展望

Tip　都市住民に向けて農業への理解促進イベント

都市住民の親子を対象に農業や食への理解を深めてもらうため、毎年「かながわ農業大発見！」を実施。地区の若手農業者グループ「みどり会」によるだいこんの栽培、収穫の指導やトラクター運転の実演などを行い、農業を身近に感じられる取り組みを実施。

多面的機能支払交付金を活用

将来に向けて

- ☑ 三浦半島の食材の価値を高め、漁業や飲食店との連携を目指し、地域の活性化を推進
- ☑ 三浦市の農業後継者対策として、都市住民と若手農家をマッチングする「アグリｄｅデート」を実施し、将来の農業活性化を模索
- ☑ 高付加価値化、差別化による地域ブランドの更なる展開と販路の拡大
- ☑ 農地中間管理機構と連携し、担い手へ農地を集積することにより農地の有効利用を推進